

農地利用最適化推進委員候補者として推薦を受けた者の名簿

団体による推薦

被推薦者								推薦者						
氏名	推薦を受ける地域	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況		名称	代表者又は管理人の氏名	設立目的	構成員数	構成員の資格	推薦理由
					年月日	経歴・職歴・公職歴・団体の役職歴	主要な作物等	面積等						
竹下 道夫	谷山地域	男	76	農業	S42.3 S47.7 H15.7  H15.8～H30.3 H15.8～ H18.6～  H22.12～ H26.4～ H26.4～H28.3 H28.4～  H30.6～ R2.4～	鹿児島市立鹿児島商業高等学校卒業 谷山農業共済組合入組 鹿児島南農業共済組合退職(合併による名称変更) 医療法人上原クリニック入職 人事管理 就農。現在に至る。 鹿児島県農業共済組合理事に就任。以後現職。合併による名称変更 鹿児島市農業再生協議会委員に就任。以後現職。 鹿児島市農事事務嘱託員に就任。以後現職。 山田下町内会会長 鹿児島市農地利用最適化推進委員に就任。以後現職。 校区まちづくり協議会事務局長就任。以後現職。 校区社会福祉協議会会長に就任。以後現職。	水稲・露地野菜・花き	自作地25アール 借入地25アール	鹿児島県農業共済組合	組合長理事 蛭川 住治	災害その他の不慮の事故によって組合員が受けることのある損失を補てんしてその農業経営の安定を図るため、農業保険法に基づき共済事業を行うことを目的とする。	63,527人	組合員たる資格を有する者は、次の各号のいずれかに該当する者で、この組合の区域内に住所を有するもの。 (1)水稲、陸稲又は麦の耕作の業務を営む者 (2)牛、馬又は豚につき養畜の業務を営む者 (3)果樹共済について事業規程に定める共済目的の果樹につき栽培の業務を営む者 (4)畑作物共済について事業規程に定める共済目的の農作物につき栽培の業務を営む者 (5)園芸施設共済について事業規程に定める共済目的の特定園芸施設を所有し又は管理する者で農業を営む者 (6)建物又は農機具を所有する者で農業に従事するもの	農地の集約化、担い手への施策集中化が進む中、農業共済は農業災害対策の根幹として役割を果たしてきています。関係機関と連携して、地域の視点に立った農業振興を積極的に推進することが不可欠です。 このような状況下、竹下道夫氏は鹿児島市内で長年農業に従事しながら、農業共済組合の理事として地元の状況を的確に把握し確かな現状認識のもとに農業の発展に尽力し、地域農業者から信頼を得ている。
竹下 道夫	谷山地域	男	76	農業	S42.3 S47.7 H15.7  H15.8～H30.3 H15.8～ H18.6～  H22.12～ H26.4～ H26.4～H28.3 H28.4～  H30.6～ R2.4～	鹿児島市立鹿児島商業高等学校卒業 谷山農業共済組合入組 鹿児島南農業共済組合退職(合併による名称変更) 医療法人上原クリニック入職 人事管理 就農。現在に至る。 鹿児島県農業共済組合理事に就任。以後現職。合併による名称変更 鹿児島市農業再生協議会委員に就任。以後現職。 鹿児島市農事事務嘱託員に就任。以後現職。 山田下町内会会長 鹿児島市農地利用最適化推進委員に就任。以後現職。 校区まちづくり協議会事務局長就任。以後現職。 校区社会福祉協議会会長に就任。以後現職。	水稲・露地野菜・花き	自作地25アール 借入地25アール	中山校区まちづくり協議会	会長 堂満 弘光	私たちの中山校区は、藩政以前の時代から谷山の穀倉地帯として、農耕を中心に、集落及び隣土の「結(ゆい)」の精神をもとに絆を強め、助け合い励まし合いながら、どんな時代でも強靱でたくましく生き抜いてきた歴史と誇りを持ち続けてきた地域です。しかし現在は、急激な都市化・住宅化が進み、生活を取り巻く環境も激変、住民の価値観も多様化しています。その為、地域住民は助け合いの精神で明るく住みよいまちづくりにとりかかっています。	19,317人	中山校区全世帯	住民の高齢化や都市化が進む中、農地の遊休農地や荒廃農地が増加しています。当協議会も遊休地の解消の為、米づくりや、野菜作りの講習を町内会等を中心に行っております。このような状況下、竹下道夫氏は鹿児島市内で長年農業に従事しながら、まちづくり協議会の事務局長と校区の社会福祉協議会会長として、高齢者等の良き相談役となっております。地元の状況を的確に把握し確かな現状認識のもとに農地の今後の管理や貸借等の解決に寄与されておられます。又、地域の農業会議等にも積極的に参加され、地域農業者から信頼を得ている。